



Shape your future



# 2018年1月期 第2四半期 決算説明会

---

株式会社シーイーシー

2017年9月13日



# 2018年1月期 第2四半期の経営成績

# 第2四半期実績 前年度比較



(単位：百万円)

	2017年1月期 (上期実績)	2018年1月期 (上期実績)		
			増減額	増減率
売上高	21,893	<b>22,594</b>	+701	+3.2%
営業利益	1,657	<b>1,642</b>	▲14	▲0.9%
営業利益率	7.6%	<b>7.3%</b>	(▲0.3%)	—
経常利益	1,732	<b>1,670</b>	▲61	▲3.6%
経常利益率	7.9%	<b>7.4%</b>	(▲0.5%)	—
当期純利益*	1,077	<b>1,134</b>	+57	+5.4%
当期純利益率	4.9%	<b>5.0%</b>	(+0.1%)	—

\* 「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」を示す。以降同じ。

# 第2四半期実績 業績予想比較



(単位：百万円)

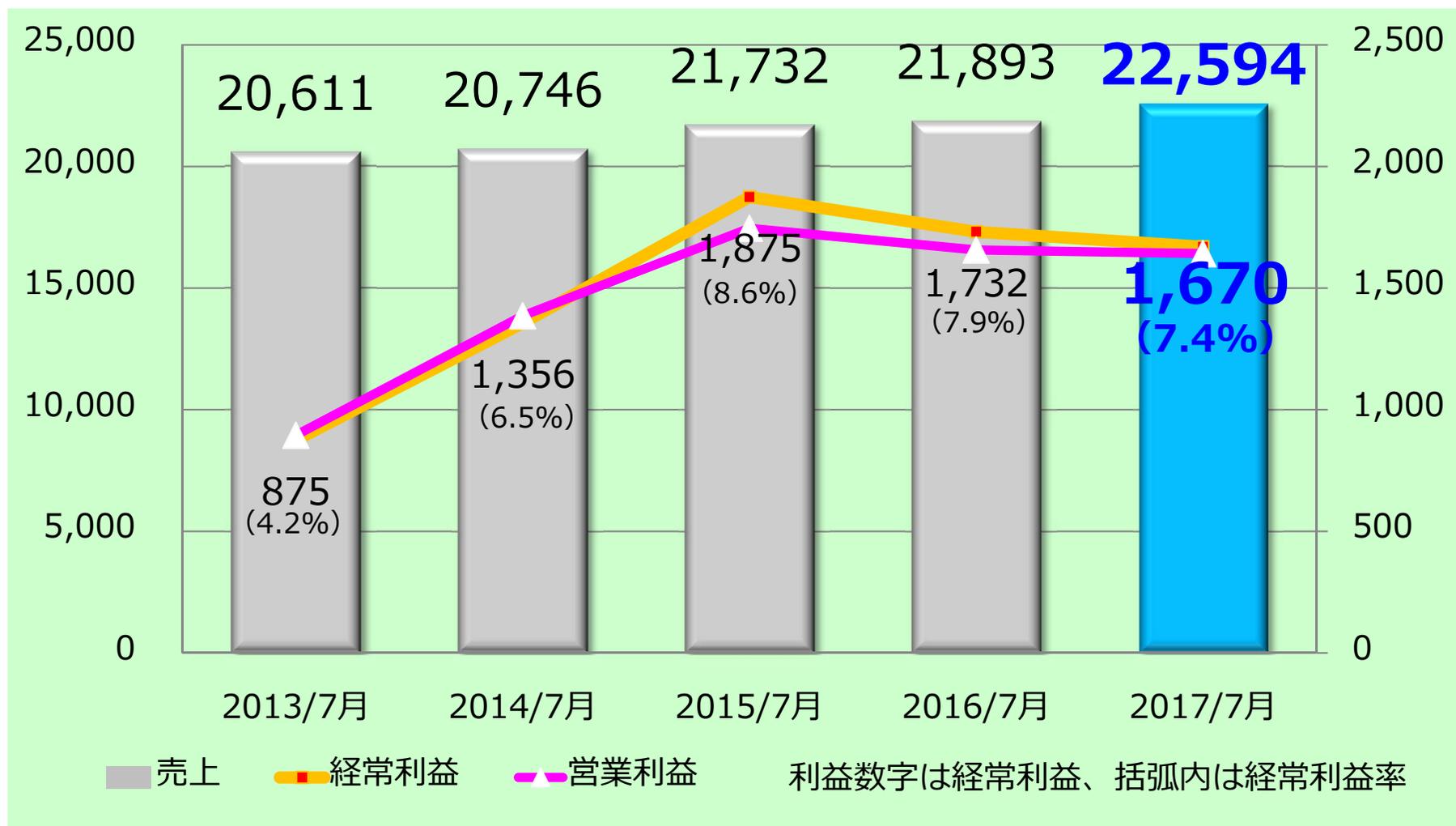
	業績予想 2018年1月期 (上期)	2018年1月期 (上期実績)		
			増減額	達成率
売上高	23,100	<b>22,594</b>	▲506	97.8%
営業利益	1,860	<b>1,642</b>	▲218	88.3%
営業利益率	8.1%	<b>7.3%</b>	(▲0.8%)	—
経常利益	1,860	<b>1,670</b>	▲190	89.8%
経常利益率	8.1%	<b>7.4%</b>	(▲0.7%)	—
当期純利益*	1,180	<b>1,134</b>	▲46	96.2%
当期純利益率	5.1%	<b>5.0%</b>	(▲0.1%)	—

# 第2四半期の過去実績の推移

◇ 5期連続増収なるも利益額は停滞気味

売上高 (百万円)

経常利益 (百万円)



# 事業セグメント別 第2四半期 前年度比較

(単位：百万円)

	2017年1月期 (上期実績)		2018年1月期 (上期実績)		増減額	
	売上高	営業利益 利益率	売上高	営業利益 利益率	売上高 (増減率)	営業利益 (増減率)
インダストリー オートメーション	5,288	868 16.4%	<b>5,396</b>	<b>879</b> 16.3%	+108 (+2.1%)	+11 (+1.3%)
システム インテグレーション	10,788	1,668 15.5%	<b>10,672</b>	<b>1,596</b> 15.0%	▲116 (▲1.1%)	▲71 (▲4.3%)
プラットフォーム インテグレーション	5,816	687 11.8%	<b>6,525</b>	<b>846</b> 13.0%	+708 (+12.2%)	+158 (+23.1%)
全社費用	-	▲1,567	-	▲1,680	-	増加112
全事業	21,893	1,657 7.6%	<b>22,594</b>	<b>1,642</b> 7.3%	+701 (+3.2%)	▲14 (▲0.9%)

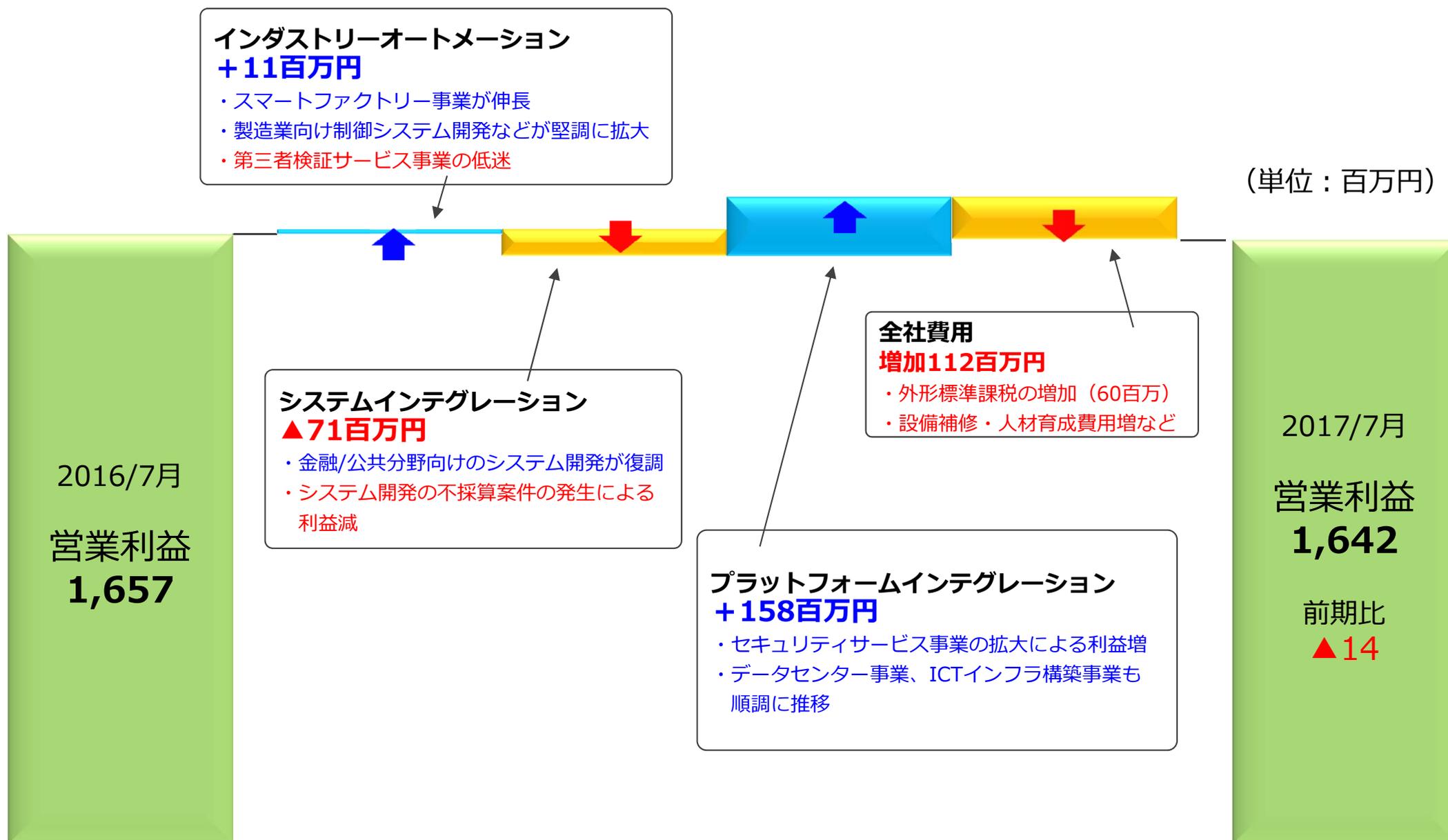
# 業種別売上 第2四半期 前年度比較

(単位：百万円)

	2017年1月期 (上期実績)		2018年1月期 (上期実績)		前期比	
					増減額	増減率
製造業	9,253	42.2%	<b>9,540</b>	<b>42.2%</b>	+287	+3.1%
通信・情サビ業	5,728	26.2%	<b>5,733</b>	<b>25.4%</b>	+5	+0.1%
金融業*	3,618	16.5%	<b>2,977</b>	<b>13.2%</b>	▲641	▲17.7%
流通業	1,019	4.7%	<b>1,333</b>	<b>5.9%</b>	+314	+30.8%
官公庁	616	2.8%	<b>829</b>	<b>3.7%</b>	+213	+34.7%
その他	1,656	7.6%	<b>2,179</b>	<b>9.6%</b>	+522	+31.5%
合計	21,893	100.0%	<b>22,594</b>	<b>100.0%</b>	+701	+3.2%

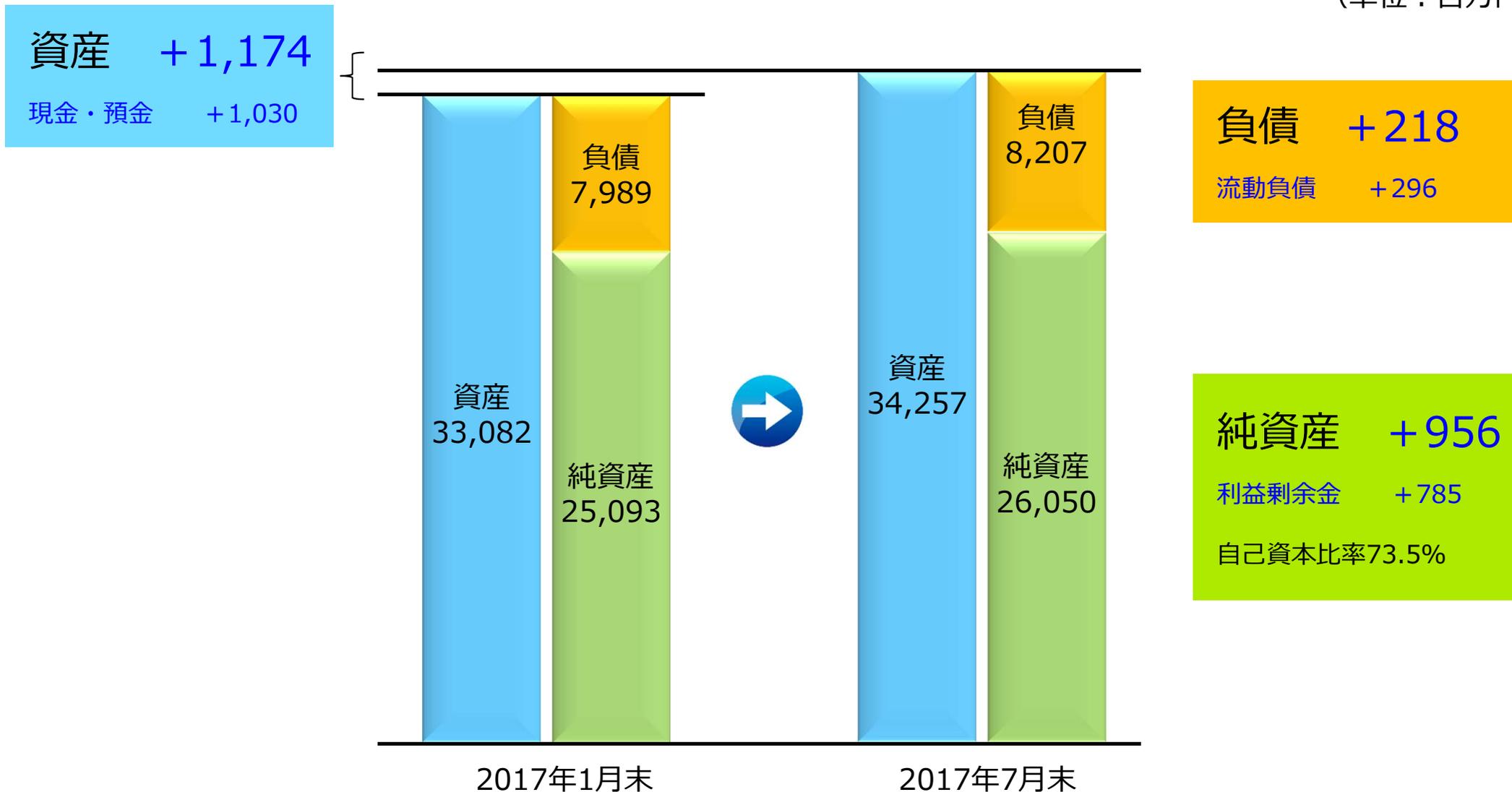
\* 金融業の減少は、前年に比べハードウェア販売など物販関連が減少したことによる

# 連結営業利益の主な増減要因



# 連結貸借対照表 期首との比較

(単位：百万円)



# 業績ハイライト

**売上高 22,594 百万円（前期比+701百万円）**

**◆インダストリーオートメーション事業 (+108百万円)**

- ・スマートファクトリー事業は堅調に推移
- ・製造業向けの制御系システム開発や組込み開発などが拡大
- ・第三者検証サービスはスマートフォン市場の低迷とコスト競争激化により事業規模の縮小が続く

**◆システムインテグレーション事業 (▲116百万円)**

- ・金融/公共分野向けのシステム開発案件が復調の兆し
- ・不採算案件の発生により新規商談開拓にブレーキ

**◆プラットフォームインテグレーション事業 (+708百万円)**

- ・トータルセキュリティソリューション「Cyber NEXT」（特にSmartSESAME、SOCなど）が好調、事業拡大が加速
- ・データセンターサービス事業や、ICTインフラ構築サービス事業も順調に推移

**営業利益 1,642百万円（前期比▲14百万円）**

- ・プラットフォームインテグレーション事業拡大による利益増
- ・複数のシステム開発分野の不採算案件発生および外形標準課税増（60百万円）などにより前年割れ

**経常利益 1,670百万円（前期比▲61百万円）**

- ・営業利益の結果に加え、前年と比較して為替差益減、貸倒引当金戻入がなくなり前年割れ

**当期純利益 1,134百万円（前期比+57百万円）**

- ・保有株式の売却益などにより利益増

# 第2四半期 事業トピックス

◇ 新製品・新サービスおよび新たな取り組みなどを発表

- 2月8日 **セキュアプリント、セイコーエプソン社製複合機の認証機能に対応**  
・ SecurePrint ! が、国内主要メーカー8社の複合機/プリンターへの対応を完了
- 2月28日 **製造現場のIoTプラットフォーム「Facteye」最新版を提供開始**  
・ データ収集・分析機能を強化し、国内主要メーカーのロボット・CNCに対応
- 3月7日 **SmartSESAME SecurePrint ! が富士通のログ管理ソリューションと連携**  
・ 自治体の情報システム基盤を守る統合ログ管理プラットフォームを提供開始
- 3月9日 **ソフトウェア開発を統合管理する品質マネジメントプラットフォーム「CS Qompass」を提供開始**  
・ 開発プロセス全体の品質、進捗、成果物を統合管理する品質マネジメントプラットフォームを提供開始
- 3月16日 **「かんたんeセキュリティ」提供開始**  
・ 社内ネットワークへのセキュリティ脅威を監視/検知/ブロック、セキュリティ対策の強化と効率化を低コストで実現
- 3月29日 **ETCを活用した渋滞緩和支援システム、東京港でトライアル運用開始**  
・ ETC利用クラウド型車両認識システム「CaoThrough\*」をベースとした“物流最適化ソリューション”
- 7月5日 **Dynamics 365 × LINE WORKS連携で、スマホから音声入力**  
・ 営業現場の働き方改革を支援する「Convergent SNS連携オプション」提供開始

\* CaoThroughは、古野電気株式会社の登録商標です

# インダストリーオートメーション

## ◇ 上期業績

	2018年1月期 上期売上実績	2018年1月期 通期売上予想
インダストリーオートメーション	54億（前年+1億）	112億（前年+8億）
内、スマートファクトリー事業	9億（前年+1億）	21億（前年+5億）

## 事業推進状況

### ●スマートファクトリー事業は売上増となるも計画値は未達

- ・主力であるFacteyeの受注件数は、前期比2.1倍に伸長。その他製品も前年比増で推移
- ・販路拡大や製品強化に努め、商談状況は依然活況
- ・上期については受注時期遅延などの影響で売上の伸びは計画値に届かず

### ●製造業向けシステム開発は堅調に推移

- ・特に制御系システム開発が好調

### ●第三者検証ビジネスは縮小傾向が継続

- ・日本製携帯電話事業の低迷や検証サービスのコスト競争激化により事業規模縮小が継続
- ・製品開発プロセス(PLM)全体への支援サービスに事業モデルを転換を推進
- ・製品開発向けプロジェクト管理ツールCS Qompassを開発、提供を開始

# システムインテグレーション

## ◇ 上期業績

	2018年1月期 上期売上実績	2018年1月期 通期売上予想
システムインテグレーション	107億 (前年▲1.2億)	217億 (前年微増)
内、MS連携Convergent事業	12億 (前年▲0.3億)	28億 (前年+1億)

## 事業推進状況

### ● マイクロソフト連携事業は前年並みの実績となり計画値は未達

- ・ 案件は活況であるが、大型案件の推進に手間取り、受注活動の停滞により事業拡大には至らなかった
- ・ Convergent「SNS連携オプション」などの新サービスを投入
- ・ 成長軌道に乗せるべく、事業戦略の再点検を実施

### ● 前期伸び悩んだ金融/公共向け事業は復調傾向

- ・ 金融、公共分野は一昨年並みの実績へと復調傾向であったが、セグメント全体のリカバリーに至らず
- ・ ニアショア開発は堅調に事業拡大

### ● いくつかの大型システム開発の不採算案件の影響により減収減益

- ・ 第1四半期に発生した不採算案件の影響を補えず前年同期比減
- ・ 第1四半期に原価増分をすべて引き当てたため、全社的にも前年比上期利益減の最大の要因
- ・ 現在は収束し、1件のみ継続してるが計画通りに推移

# プラットフォームインテグレーション

## ◇ 上期業績

	2018年1月期 上期売上実績	2018年1月期 通期売上予想
プラットフォームインテグレーション	65億 (前年+7億)	131億 (前年+12億)
内、セキュリティサービス事業	13.5億 (前年+4.5億)	29億 (前年+11億)

## 事業推進状況

### ●注力事業 “トータル セキュリティ ソリューション事業「Cyber NEXT」”が順調に伸長

- ・ SmartSESAMEシリーズは全国270自治体に導入済、自治体・官公庁、民間共に好調を維持
- ・ CEC SOCはトレンドマイクロ社との協業強化や「かんたんeセキュリティ」の投入などにより堅調に事業拡大

### ●データセンター事業、ICTインフラ構築サービス事業も新規開拓効果で伸長

- ・ データセンターサービス事業はメインフレーム関連サービス強化による差別化で増収
- ・ ICTインフラ構築サービス事業も新規構築案件など順調に推移し増収

上期については、各事業がそれぞれ伸長、特にセキュリティサービス事業は想定以上に事業拡大し、全体で前年比+7億円、対計画値においても+2.5億円程度上回る事ができたため、通期売上予想を当初計画より5億円ほど上積みし、更なる事業拡大を狙う



Shape your future

# 2018年1月期の見通し

- **米国の政治不安増大**
- **米国は保護主義に向かい力の外交へ**
- **米国と中国の経済成長だけに頼る資本主義国**
- **米国がさらにかき回す中東問題**
- **移民問題を火種として、さらに深まるEU危機**
- **中国の強硬な覇権主義による東アジアの混沌**  
南沙諸島/尖閣諸島/台湾問題など課題満載
- **韓国の政治・経済停滞と日本との深まる溝**
- **北朝鮮問題の深刻化**
- **ロシア・中国と西側諸国の対立姿勢が顕著化**

**さらに不透明感が増大している**

- 政治は久々の安定政権（だったが…）
- 日本経済は緩やかに回復を継続
- ラグビーW杯や東京オリンピックなどイベント
- 大手企業はデフレ時代を乗り越え筋肉質
- 円安傾向もあり、好決算企業が多数
- 完全雇用状態が継続、街には物が溢れている
- ICT投資意欲は旺盛・深刻なICT技術者不足
- ▲ さらに積み上がる財政赤字
- ▲ 世界経済から大きな影響を受けるグローバル経済
- ▲ 深まる地政学的リスク

**国際情勢変化による世界経済の急速な悪化が不安材料**

# 業績予想の修正（期初通期予想との比較）

（単位：百万円）

	期初予想 (通期)	修正予想 (通期)		
			増減額	増減率
売上高	46,500	<b>46,000</b>	▲500	▲1.1%
営業利益	3,750	<b>3,600</b>	▲150	▲4.0%
営業利益率	8.1%	<b>7.8%</b>	(▲0.3%)	—
経常利益	3,850	<b>3,660</b>	▲190	▲4.9%
経常利益率	8.3%	<b>8.0%</b>	(▲0.3%)	—
当期純利益	2,450	<b>2,450</b>	0	0
当期純利益率	5.3%	<b>5.3%</b>	(微増)	—

# 下期業績予想と上期実績の差異

	上期実績	下期業績予想		
		増減額	増減率	
売上高	22,594	<b>23,405</b>	+811	+3.6%
営業利益	1,642	<b>1,957</b>	+315	+19.2%
営業利益率	7.3%	<b>8.4%</b>	+1.1%	—
経常利益	1,670	<b>1,990</b>	+318	+19.1%
経常利益率	7.4%	<b>8.5%</b>	+1.1%	—
当期純利益	1,134	<b>1,315</b>	+180	+15.9%
当期純利益率	5.0%	<b>5.6%</b>	+0.6%	—

# 新業績予想と前年度実績の比較

	2017年1月期 (通期実績)	2018年1月期 修正予想 (通期)		
			増減額	増減率
売上高	43,976	<b>46,000</b>	+2,023	+4.6%
営業利益	3,311	<b>3,600</b>	+288	+8.7%
営業利益率	7.5%	<b>7.8%</b>	(+0.3%)	—
経常利益	3,420	<b>3,660</b>	+239	+7.0%
経常利益率	7.8%	<b>8.0%</b>	(+0.2%)	—
当期純利益	2,612	<b>2,450</b>	▲162	▲6.2%
当期純利益率	5.9%	<b>5.3%</b>	(▲0.6%)	—

# 事業セグメント別 新業績予想と期初予想の比較

(単位：百万円)

	期初予想 (通期)		修正予想 (通期)		増減額	
	売上高	営業利益 利益率	売上高	営業利益 利益率	売上高 (増減率)	営業利益 (増減率)
インダストリー オートメーション	11,397	1,915 16.8%	<b>11,184</b>	<b>1,820</b> 16.3%	<b>▲213</b> (▲1.9%)	<b>▲95</b> (▲5.0%)
システム インテグレーション	22,480	3,642 16.2%	<b>21,703</b>	<b>3,440</b> 15.9%	<b>▲777</b> (▲3.5%)	<b>▲202</b> (▲5.6%)
プラットフォーム インテグレーション	12,621	1,533 12.2%	<b>13,113</b>	<b>1,680</b> 12.8%	<b>+491</b> (+3.9%)	<b>+147</b> (+9.6%)
全社費用	—	<b>▲3,340</b>	—	<b>▲3,340</b>	—	—
全事業	46,500	3,750 8.1%	<b>46,000</b>	<b>3,600</b> 7.8%	<b>▲500</b> (▲1.1%)	<b>▲150</b> (▲4.0%)

# 事業セグメント別 新業績予想と前年度実績の比較 **CEC**

Computer Engineering & Consulting

(単位：百万円)

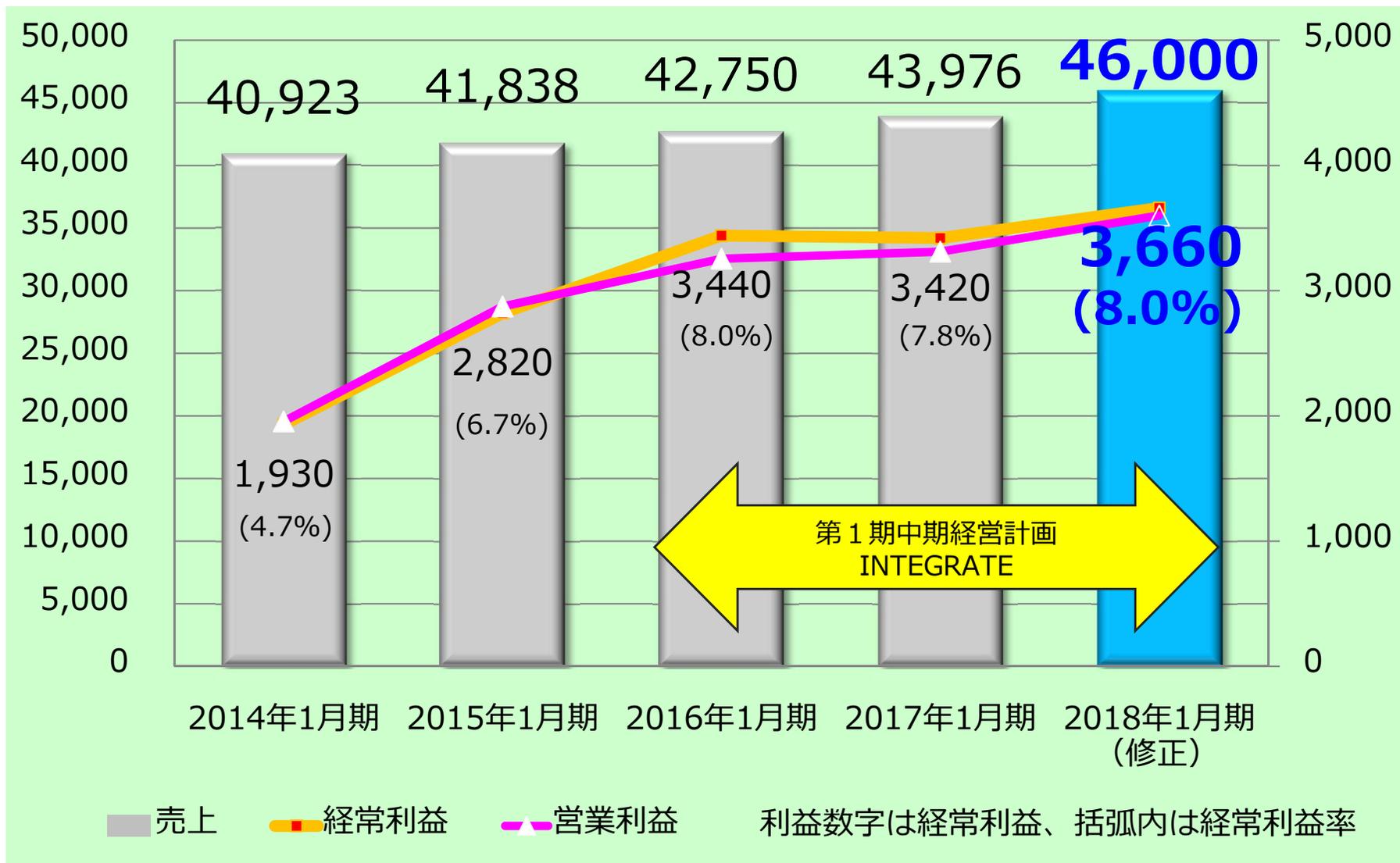
	2017年1月期 (通期実績)		2018年1月期 修正予想 (通期)		増減額	
	売上高	営業利益 利益率	売上高	営業利益 利益率	売上高 (増減率)	営業利益 (増減率)
インダストリー オートメーション	10,403	1,673 16.1%	<b>11,184</b>	<b>1,820</b> 16.3%	+780 (+7.5%)	+146 (+8.8%)
システム インテグレーション	21,657	3,427 15.8%	<b>21,703</b>	<b>3,440</b> 15.9%	+45 (+0.2%)	+12 (+0.4%)
プラットフォーム インテグレーション	11,915	1,391 11.7%	<b>13,113</b>	<b>1,680</b> 12.8%	+1,197 (+10.1%)	+288 (+20.7%)
全社費用	-	▲3,181	-	▲3,340	-	増加158
全事業	43,976	3,311 7.5%	<b>46,000</b>	<b>3,600</b> 7.8%	+2,023 (+4.6%)	+288 (+8.7%)

# 新業績予想と過去実績の推移

◇ 連続増収基調、および経常利益率8.0%

売上高 (百万円)

経常利益 (百万円)



# 通期業績予想の修正理由

## マイナス要因

- ① **上期に発生した不採算プロジェクトによる売上・利益減**
- ② Convergent事業の伸び悩み
- ③ システムインテグレーション事業の低迷
- ④ 第三者検証サービス事業の継続的な市場縮小
- ⑤ 前年度よりも外形標準課税の増加（約+120百万）も重石に

## プラス要因

- ① セキュリティサービス事業の想定以上の事業拡大
- ② データセンター事業・ICTインフラ構築サービス事業の堅調な成長
- ③ スマートファクトリー事業の成長継続
- ④ 製造業向け制御システム開発分野の活況

**下期予想は期初に立てた計画以上の数値に修正したが、上期の未達分をすべて穴埋めできるまでは困難と判断した。**

**上記のプラス要因はさらなる成長を期待させるが、予測できない部分もあり、今回の見直し数値とした。**



*Shape your future*

# 下期予想達成施策

下期予想達成施策

## 全体方針

好調なプラットフォームインテグレーション事業分野の成長をさらに加速、堅調なインダストリーオートメーション分野も成長スピードを上げる。  
低迷しているシステムインテグレーション分野は、プロジェクト管理のさらなる徹底により不採算案件の再発防止を行うとともに、成長軌道へ転換するために事業戦略を再度見直す。

## 下期予想達成施策の概要

### ① 注力3事業を集中して事業拡大

#### ・セキュリティサービス事業

SmartSESAMEシリーズの販売好調に加え、トータルセキュリティソリューション Cyber NEXT全体も商談は活況なため、さらなる事業拡大を加速する。

#### ・スマートファクトリー事業

工場IoTのテーマを軸に引き合いは強い。  
堅調に推移しているが、さらに事業拡大スピードを上げる。

#### ・MS連携Convergent事業

上期は案件は多数あったものの、一部大型案件の推進に手間取り受注活動が停滞した。  
事業構造を見直し、継続的な成長を実現できるよう事業戦略を再度練り上げる。

### ② 注力アカウントへのリソース集中

ICT技術者不足を背景に、注力アカウントにリソースを集中。  
顧客とともに成長する戦略的ICTパートナーの位置づけをさらに強化する。

# 注力3事業の状況及び通期見通し

## スマート ファクトリー事業

・工場IoTプラットフォーム**Facteye**の機能強化や販路拡大を推進し商談引き合いは活況である。下期は、商談のクロージング速度UPと、他社製品連携強化などで、前年比30%増の通期売上21億を達成する。

## MS連携 Convergent事業

・上期は大型案件の推進に手間取り、受注活動が停滞したことにより前年並みの実績となったが、継続的な事業拡大が実現できる戦略を再考し、来期以降に成長軌道に乗せる。下期は前年実績+1億円の通期売上28億を達成する。

## セキュリティ サービス事業

・**SmartSESAME**については、依然好調な公共分野に加え、文教需要の取り込みによって下期伸長を見込む。**CEC SOC**やトレンドマイクロ社との連携による製品販売など**Cyber NEXT**全体も堅調。前年比60%増の通期売上へ見通しを上積みした。

### 前年度との売上比較

	2017年1月期 (上期実績)	2018年1月期 (上期実績)	増減額
スマートファクトリー事業	8億	9億	+1億
MS連携 Convergent事業	12億	12億	(0)
セキュリティ事業	9億	13.5億	+4.5億
合計	29億	35億	+5.5億

### 通期見通し

2017年1月期 実績 (通期)	2018年1月期 修正予想 (通期)	増減額
16億	21億	+5億
27億	28億	+1億
18億	29億	+11億
61億	78億	+17億

# インダストリーオートメーション

## ◇ 下期売上予想

	2018年1月期 下期売上予想
インダストリーオートメーションBG	58億（上期+4億）
内、スマートファクトリー事業	12億（上期+3億）

## 達成施策

### ●スマートファクトリー事業の成長スピードを向上

- ・ビジュアルファクトリー構想として、製造業の各工場・生産ライン・生産設備などの稼働状況が一目で把握できる新製品を商品化予定
- ・各設備や作業員の稼働データの組み合わせによって得られる情報をQCD向上に活用する稼働状況分析ツールを商品化予定
- ・工場作業員支援ツールの機能強化と製品ラインナップ強化（作業通知・指示、遠隔保守、安全管理）

### ●製品開発支援サービスの本格的な事業展開

- ・第三者検証サービスを軸に、組込みソフト開発サービスなど製品開発プロセス全般を支援するサービスに発展させ、事業拡大を図る
- ・製品開発におけるプロジェクト管理ツール「CS Qompass」の拡販推進

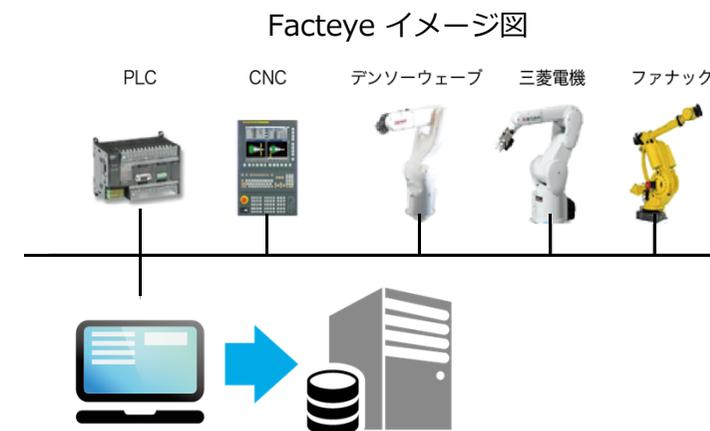
### ●好調な組立製造業向けシステム開発サービスのさらなる拡大

- ・主要アカウントにリソースを集中し、戦略的な開発パートナーとしての取り組みを一層強化

◇ 日本版インターストリー4.0を標榜し、製造業の生産性向上・製品品質の改善を支援するICT製品・サービスを提供

## ■工場IoTプラットフォームFacteye

- ・製造現場のデータを管理する情報基盤を確立し、データ分析による可視化を実現。生産性向上や、品質改善に役立つ付加価値の高い情報を提供
- ・ネットワーク非対応機器も含め、複数の工作機械、ロボットメーカーに対応した高い汎用性を拡大
- ・設備の稼働状況監視、消耗品のLC管理を通じて、予防/予兆保全を実現し「止まらない工場」を目指す

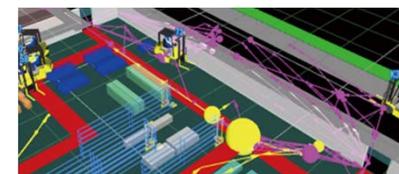


## ■作業員の作業効率向上、作業品質のさらなる改善をICTで支援

- ・AGC旭硝子様と共同開発した、スマートウォッチを使ったオペレーター動態分析システム「スマートロガー」を拡販強化

現場における、オペレーターの位置、工程の進捗他をリアルタイムに収集し、直観的に状況把握が可能な3D画像 (RaFLOW) で情報提供。作業指示も可能な、双方向の情報連携サービスも強化

RaFLOW イメージ図



スマートロガー イメージ図



## ■ディープラーニング技術を活用した製品・サービスの開発

- ・ディープラーニングを活用した高精度画像検査 **WiseImaging**の事業拡大
- ・ディープラーニング技術のさらなる研究継続とディープラーニング関連企業との関係強化による新製品、新サービスの創出を狙う
- ・同技術の他分野への展開も模索

# システムインテグレーション

## ◇ 下期売上予想

	2018年1月期 下期売上予想
システムインテグレーションBG	110億（上期＋3.5億）
内、MS連携Convergent事業	15.5億（上期＋3.5億）

## 達成施策

### ● Dynamics 365を中心とするConvergent事業推進施策の着実な進捗

- ・独自の業務テンプレートのラインナップを増強し、適用する業種・業務単位を広くすることにより、開発スピードの向上と開発コストの低減を差別化の武器として確立する
- ・地域展開のために地域ごとの体制構築と開発パートナー企業の拡大を図る

### ● プロジェクト管理の強化と復調した金融・公共分野の既存顧客の取引拡大

- ・不採算案件の発生を撲滅するために、プロジェクト管理のさらなる強化と全社組織である品質革新本部の第三者的チェック活動をさらに徹底する
- ・金融・公共分野は上期は引き合いが谷間であったが、ようやく復調の兆し、既存顧客の取引拡大だけでなく、新規顧客開拓についても再度チャレンジする

### ● マイ그레이ション事業ITリノベーションサービスRe@nove拡販強化

- ・Re@noveは商談数も多く、さらに引き合いが増えている状況、この好機を逃さず事業拡大を図る

### ● 主要アカウントとの取引拡大を重視

- ・主要アカウントにリソースを集中し、戦略的な開発パートナーとしての取り組みを一層強化

## ◇ Convergent 事業を発展させ、成長のエンジンとする

- ・ Convergentはマイクロソフトのクラウドサービスに、CEC独自ノウハウ/ナレッジを付加した統合クラウド業務支援システム
- ・ 部門内/部門間の情報授受・伝達をスムーズに行うことで、業務効率及び生産性の向上に貢献

**当社独自の業種・業務テンプレートを増強し、システム構築の圧倒的生産性を実現する**



◇ 顧客の成長戦略実現を支援する、既存IT資産の再生（マイグレーション）ビジネス

・既存IT資産の「リフォーム」だけではない「リノベーション」サービスにより新たな価値を創出、戦略的システムへ再生

## Re@nove の価値

IT リノベーション –再生・革新–

成長戦略が求める要件を実現

顧客訴求力向上

セキュリティ強化

維持管理負担の軽減

TCO削減 など

IT リフォーム –原状回復–

個々の/目の前の課題に対処

ソフトウェア保守期限切れ

ブラックボックス化

旧言語技術者確保 など

## Re@noveの強み①：幅広い対応力

サービス範囲

アプリ～インフラまで  
総合サービス

クラウド対応

クラウド移行へ対応

作業範囲

診断～保守まで  
ワンストップでご提供

性能

性能チューニングに強み

適用範囲

言語変換、DB移行など  
マルチプラットフォーム対応

## Re@noveの強み②：独自のメソッドでワンストップ対応

調査

- ・有効資産の棚卸し
- ・プログラム品質診断
- ・脆弱性診断

変換/移行

- ・プラットフォームの選定
- ・移行インパクトの特定
- ・ソース変換、新環境への移行

テスト

- ・現新環境でのアウトプット比較による機能保証

独自  
ツール

×

専門  
技術者

# プラットフォームインテグレーション

## ◇ 下期売上予想

	2018年1月期 下期売上予想
プラットフォームインテグレーションBG	66億（上期+1億）
内、セキュリティサービス事業	15.5億（上期+2億）

## 達成施策

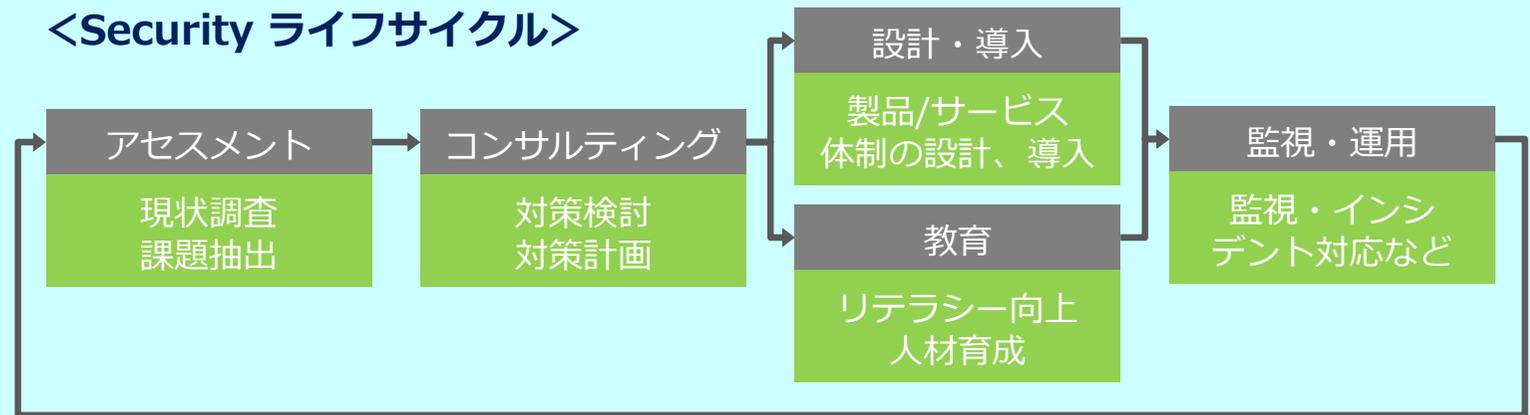
- **トータルセキュリティソリューションCyber NEXTのさらなる拡大**
  - ・ オフィスセキュリティソリューションSmartSESAMEシリーズの成長加速
    - － 全国地方自治体270拠点に導入済、さらに今期中に300拠点を超える見通し
    - － 官公庁、民間企業へも導入は拡大中
    - － 今後は文教分野への市場展開を推進
  - ・ 「CEC SOC」「かんたんeセキュリティ」の拡販強化（販社活用など）
  - ・ セキュリティ分野の継続的な製品ラインナップの拡大
- **収益が安定化したデータセンターサービス事業のさらなる事業効率向上を推進**
  - ・ 神奈川第二DCの事業譲渡に伴う売上・利益減少をすべて解消し、上積み成功
  - ・ 運用業務の効率化と設備最適化により事業効率の改善を実施、さらなる利益増を狙う
- **ICTインフラ構築サービス事業も好調**
  - ・ 公共分野向けのサーバー・ネットワーク構築商談は堅調、今後も安定的に拡大を見込む
- **働き方改革支援など新たなビジネスプラットフォーム製品・サービスの創出**

◇ 3つのカテゴリーで「Cyber NEXT」を展開

## Security Integration インテグレーション

- ・顧客に最適なセキュリティシステムをワンストップ提供
- ・セキュリティシステムのライフサイクルを担い、長期ストック化を実現

### <Security ライフサイクル>



## Security Platform プラットフォーム

- ・セキュリティを強化した公共団体向けプラットフォームを構築
- ・自社ファシリティを活用したクラウドの提供（データセンター事業との相乗効果）

## Security Distribution ディストリビューション

- ・国内外の、差別化を図れるセキュリティ製品やサービスの販売権を確保
- ・インテグレーションおよびプラットフォームとのバンドル提供

## ◇ 官公庁/自治体など公共分野は引き続き活況、民間企業、文教市場へ展開も進む

- ・マイナンバーを扱う端末への二要素認証義務化に伴い、SmartSESAME PCログインの出荷が3.5倍に伸長
- ・自治体に強い地場密着型パートナー企業（80社）と協業し強力な営業体制を構築済。SmartSESAME各種商材を全国展開
- ・SecurePrint！においても、さらなる導入数拡大が進み、官公庁/自治体のみならず市場拡大中

自治体に強い地場密着型  
パートナー企業（80社）  
との販売体制を構築済

今期中に累計約300以上の  
自治体への導入を目標

**300以上**

約 **850**

全国都道府県および市の数

全国地方自治体  
すでに270団体に  
導入済!!!

## ◇ 働き方の多様化の時代にマッチした特徴あるサービスを今後も拡充

- ・SecurePrint！の導入により、サテライトオフィスでのセキュアな印刷環境を提供（どの営業拠点でも印刷が可能）
- ・全国3万店舗のコンビニを活用した、社外でのセキュアな印刷環境を提供

# 決然と躍進する

断固たる決意を以て  
挑む道を選択し  
INTEGRATEを完遂する

# ご清聴ありがとうございました



## *Shape your future*

[お問合せ先]

株式会社シーイーシー

企画部 広報グループ

03-5789-2442

経理部 IR担当

046-252-4111

- 本資料は、投資を勧誘する事を目的として作成されたものではありません。
- また、本資料に記載しております将来の業績に関する見通しは、日本経済や情報サービス産業の動向、その他現時点で入手可能な情報による判断及び仮定により、算出しております。従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、変動する可能性がある事をご承知おきください。